

2025 年
9月号

国家試験対策ニューズレター

受験応援号

発行：日本福祉大学社会福祉学部

本号では、行政専修の先輩の合格体験記を掲載しています。また、今回の『国家試験ワンポイントアドバイス』は、川島ゆり子先生、菊池遼先生、添田が担当して以下の4科目についてアドバイスをお届けします。①地域福祉と包括的支援体制、②福祉サービスの組織と経営、③ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）、④ソーシャルワークの理論と方法（専門）。参考にしながら勉強を進めましょう！（編集担当：添田正揮）

教員からの激励メッセージ

受験勉強に本気になる

添田正揮

夏休みが終わり、気持ちを新たに合格を目指して取り組んでいきましょう。いよいよ国家試験に向けて、最後の仕上げに入る時期になりました。まずはここまで、日々の勉強を積み重ねてきた努力に心から拍手を送りたいと思います。

さて、自分なりの勉強スタイルは見つかりましたか？ 9月から試験本番までの約5か月間は、知識を固めて自信をつけるための大事な時間です。この時期に大切なのは「基礎の確認」と「弱点の見直し」です。過去問題や模擬試験を解き直し、間違えたところを丁寧に振り返ってください。個人差はありますが、新しい参考書を次々と開くより、これまで学んできたテキストやノートを繰り返し確認する方が、知識はしっかり身につきます。

同時に、生活のリズムを整えることも忘れないでください。夜遅くまで無理をして体調を崩すと、せっかくの勉強も続きません。毎日の計画を小さく区切り、少しずつ積み重ねることが合格につながります。不安になったときは、仲間や先生に相談してください。一緒に頑張る人がいると思えるだけで、気持ちはずっと軽くなります。そして、「なぜ自分は社会福祉士を目指すのか」という気持ちを思い出してほしいと思います。実習で出会った利用者や職員みなさん、授業で学んだ事例、心に残っているエピソード…きっとそれぞれに原点がありますよね。その思いが、苦しい勉強を続ける力になります。

国家試験はゴールではなく、皆さんがこれから社会で活躍していくためのスタートです。人の暮らしに寄り添い、支え合う仕事に就く第一歩。その道を歩み出すために、今できることを一つずつ積み重ねていきましょう。

受験勉強に本気になっている人はもう一段ギヤを上げて。まだの方は一度本気になってみましょう。たとえば、合格発表の日に「合格した？」と聞かれた時、就職先で「国家試験はどうだった？」と聞かれた時の自分を想像してみてください。

日本福祉大学の教職員、OB・OG、先輩ソーシャルワーカーは皆さんを合格までサポートし続けます。当日は、愛知県会場の入り口で待っています！

私のおすすめ勉強法

行政専修卒業 小塚敬太 さん

皆さんこんにちは！過去問や模試の復習方法が分からず困っている人もいるかもしれません。復習の方法や勉強の進め方は皆さんそれぞれに合うやり方があるとは思いますが、私の体験談が少しでも参考になると幸いです。私からは「取り組んだ勉強法」と「過去問・模擬試験の復習方法」についてお伝えします。

—取り組んだ勉強法—

勉強の軸として取り組んだのは、科目別の過去問演習とポイントノートの作成です。

過去問演習では、問題の傾向を掴むために日ごとに科目を決めて3年分～5年分の過去問を解くようにしていました。ポイントは試験センターのホームページから印刷して書き込みながら問題を解くことです。間違っている部分に線を引き、正しい単語を書き込むことで自分の理解度を把握することができます。

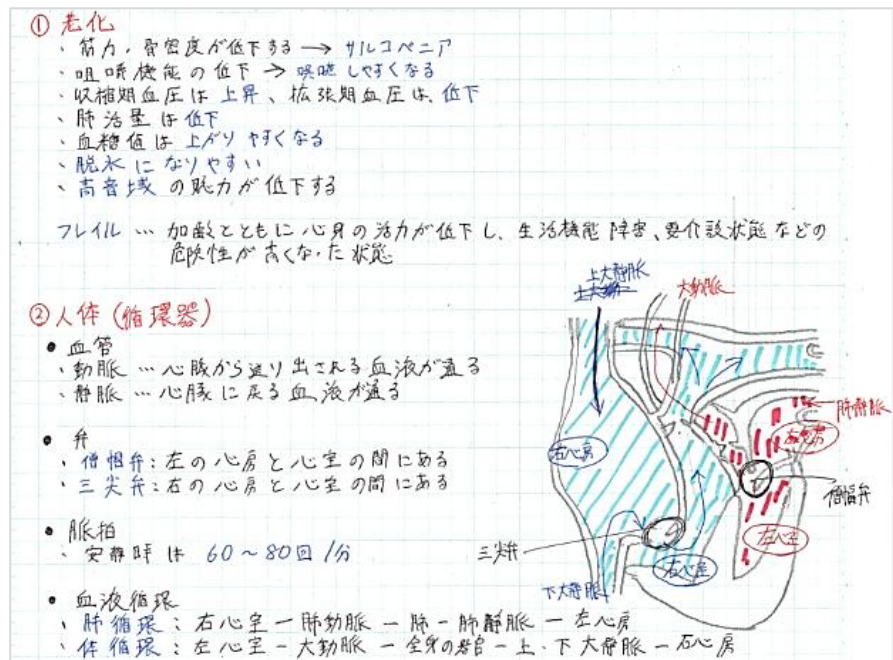
また、取り組んだ問題の答え合わせをする時は間違えた部分はテキストで調べてアンダーライン、テキストに載っていない細かいポイントは付箋で書き込むようにしていました。繰り返し間違える場合は、ポイントを整理してノートにまとめていました。人体の構造や制度の仕組みを理解するためには自分で図解してみるのも効果

的です。効率的ではないですが、自分でまとめることで記憶に残りやすくとてもオススメの勉強法です。

そして、電車での移動時間などスキマ時間で赤マル福祉に取り組んでいました。赤マル福祉は繰り返し間違えている問題のみを出題する機能があり、苦手な制度や分野が分かりやすいため短時間で効果的な勉強をすることができます。友達と定期的に習熟度を共有することもモチベーションにつながります。各々の得意分野を共有してお互いに苦手分野を教えあうことも勉強法の一つとして取り組んでいました。

—過去問・模擬試験の復習方法—

次に過去問や模擬試験の復習を私がどのように行っていたのかをお伝えします。特に模擬試験



では、細かい内容や制度の仕組みを問われることが多く復習の仕方で悩む人も多いと思います。私は得意分野と苦手分野で復習方法を分けていました。まず、得意分野では細かい内容についても整理して、ポイントノートやテキストに補足として書いていました。得意分野ではミスをしないために制度を体系的に流れで理解することが大切なため、自分で説明できるまで図解してまとめることを意識していました。

苦手分野で間違えた問題については、模試の直後に解説をテキストやポイントノートに整理したうえで期間を空けて解きなおすことをしていました。定期的に解きなおし、問題の誤っている部分を修正することで理解度が高まります。

過去問や模擬試験の解きなおしでは、単に繰り返し解くのではなく、5つの選択肢各々の内容を理解することが大切です。テキストや解説集を活用して間違っている選択肢の文章をどう直せば正解になるのかを理解することが重要です。

最後に、勉強をする中で私が大切だと思うのは「適度に休み、継続的に取り組むこと」だと思います。国家試験の勉強、就活、卒論などで忙しく、大変な時期だと思います。しかし、何もやらないのと、過去問を毎日10問だけ解くのでは結果に大きく差が出てくると思います。勉強する時間がない、気分が乗らないときは少しで良いので赤マル福祉で問題を解くことをオススメします！そして、国家試験に向けて追い込むことも大切ですが、時には友達と遊び、話をして息抜きをしてください！まだまだ間に合います！周りの仲間と支えあいながら最後まで頑張ってください！応援しています！

国家試験対策 ワンポイントアドバイス～4科目～

地域福祉と包括的支援体制

担当：川島ゆり子

いよいよ、今年も後半になりました。ここから模擬試験の受験や振り返り、全体の見直しや弱点科目の強化など、国家試験に向けてふんばりどころですので、互いに励まし合いながらがんばっていきましょう。

地域福祉と包括的支援体制は、旧カリの「福祉行財政と福祉計画」の範囲の中で、地域に関わる部分が含まれるようになったので、内容の幅が広がり覚えることも増えて苦手意識を持っている人も多いのではと思います。また他の科目との重なりも多いので他の科目で押さえておけるところは除いて、地域福祉と包括的支援体制としてのポイントを整理したいと思います。事例問題が毎年数問出題されますが、基本的に「住民任せ、専門職任せにしない」「孤立しがちな状況にある人の、地域社会への参加」ということを押さえながらソーシャルワーカーとしての動きを確認しておけば解けるチャンス問題ですので、確実に得点しておきましょう。そのほかの問題のポイントは以下の3点です。

1. 地域福祉に関する法律

他の分野（高齢・障害・児童・生活困窮等）と重なる項目も多いので、地域福祉としては、「社会福祉法」の地域福祉の理念に関する条文4条、包括的支援体制に関する106条2以下、地域福祉計画に関する107条108条、社会福祉協議会に関する109条110条、共同募金に関する112条～118条、この辺りを見ておきましょう。（*災害に関する問題は今後も出題される可能性が高い

ので、災害対策基本法もチェックしておきましょう)

2. 旧カリの行財政の内容

旧カリの行財政の内容については、地域福祉計画（評価を含めて）と、地方財政の支出の構成費については、毎年必ず出題されています。市町村と都道府県の支出割合の違いについても押さえておくの良いと思います。

3. 包括的支援体制

包括的支援体制については、科目名にもなっていることから必ず出題されると思っておいください。包括的支援体制の3つの柱（相談支援・参加支援・地域づくり支援）や、包括的支援体制を具体的に推進する「重層的支援体制整備事業」については、必ず見ておくようにしておいください。全般的に、地域福祉と包括的支援体制の出題については、実践よりは「しくみ」についての設問が多くなってきている傾向ですので、この部分は得点源になりやすいところです。

応援しています、頑張ってください！！

福祉サービスの組織と経営

担当：菊池遼

「福祉サービスの組織と経営」という科目は扱う分野が幅広くはありますが、出題傾向は比較的安定している傾向にあります。第37回国家試験でも正答率が高い科目群で、ポイントさえ押さえれば、得点源としやすい分野と言えるでしょう。

■ 出題傾向と頻出テーマ

まず、毎年必ず出題されているのが「社会福祉法人」「会計・財務管理」「組織経営の理論」に関する問題です。評議員会の役割、残余財産の扱い、事業区分ごとの会計処理など、基本制度の理解が求められます。「特定非営利活動法人（NPO法人）」についても高頻度で出題されており、制度上の特徴を比較しておくことが重要です。経営理論ではウェーバー、バーナード、テイラー、サイモンなど理論家と用語の結びつきを押さえておきましょう。

その他には、ハラスメント、人材マネジメント(OJT・Off-JT・目標管理制度・キャリアパス・キャリアアンカー・モチベーションなど)、集団の力学（集団浅慮、集団の凝集性・コンフリクトなど）、サービス提供体制の管理などについては、第38回試験に出題される可能性が高いでしょう。

この科目の出題範囲は広く、上記以外の分野の問題が1～2問程度は出題される可能性があります。見方を変えれば確実に4～5問くらいは出題される問題が予想できます。

■ 時事問題との関連：移民介護人材にも注目

2025年度の試験では、介護人材確保の文脈から、移民労働者の受け入れや制度設計に関する出題の可能性があります。経済連携協定(EPA)による受け入れ国(インドネシア、フィリピン、ベトナム)や、技能実習制度、特定技能制度との違いなど、ニュースと結びつけて確認しておきましょう。

■ 新カリで踏まえておくべきこと

「社会福祉経営論」の中でも何度か説明しましたが、この科目で学ぶ内容は社会福祉法人制度改革の流れの影響を受けています。平成29(2017)年の改革では、「経営組織のガバナンスの強化」「事業運営の透明性の向上」「財務規律の強化」「地域における公益的な取組を実施する責務」「行政の関与のあり方」が主な内容として取り上げられました。これらの流れを知っておくだけでも、正答を推測することができます。こういった社会的な背景も知っておきましょう。

第37回社会福祉士国家試験以降は新カリキュラムになったことは皆さんご存知かと思いますが

が、事例問題や「国語力」が求められる問題が多くなってきています。その上でも、大まかな制度改革の流れを知っておくことで解ける問題もありますので、鳥の目（＝大まかな社会や制度の流れ）と虫の目（＝細かい用語などの知識）の両方を意識して学習していきましょう。

ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）

担当：添田正揮

本科目は、「共通」と「専門」に分かれています。専門は出題範囲が狭く、出題数は6問と少ないため対策は立てやすいです。試験問題は基本的に、出題基準の中項目を基に作成されます。下記①～⑤は過去問題（相談援助の基盤と専門職とソーシャルワークの基盤と専門職）を頻出度順に並べたものです。傾向を押さえ、事例問題の形式に対応できるよう学習しましょう。なお、「ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・専門）：合計12点」と「ソーシャルワークの理論と方法（共通・専門）：合計18点」の2科目での配点合計は30点で合格基準点の4割近くを占めるため、難易度の低い問題での失点（＝とりこぼし）をゼロに近づけましょう。

① 職域と専門職 大項目1▶中項目2～4

【傾向】31回問96・97、32回問95・97、33回問95・96・97、34回問94・97、35回問91・96、36回問92・96、37回110、111・112

※ すべての事例問題は職域と専門職に該当するため、この項目の学習は「SW基盤と専門職」と「SWの理論と方法」の共通・専門をカバーすることになり得点につながる

② 総合的かつ包括的な支援、多職種連携の意義と実践 大項目3▶中項目1～2

【傾向】31回問96・97、32回問97、33回問97、34回問95・96・97、35回問97、37回114

③ ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味と実践 大項目2▶中項目1～2

【傾向】34回問95、36回問92、37回113

※ 各レベルの定義を押さえ、事例問題に対応できるようにしよう

④ ソーシャルワーク専門職の概念と範囲 大項目1▶中項目1

【傾向】33回問93、34回問94、37回109

⑤ 諸外国の動向 大項目1▶中項目5

【傾向】関係するのは「共通」の大項目2 ソーシャルワークの概念▶1) ソーシャルワークの定義、大項目4 ソーシャルワークの形成過程▶中項目1) ソーシャルワークの形成過程

表：出題基準 ※色のアミは新カリにおける新規項目

大項目	中項目
1 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲	1) ソーシャルワーク専門職の概念と範囲
	2) 社会福祉士の職域
	3) 福祉行政等における専門職
	4) 民間の施設・組織における専門職
	5) 諸外国の動向
2 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	1) ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象
	2) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
3 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容	1) ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容
	2) ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容

※中項目の各キーワードは定義や理論が一つだけではないため問題を作成するのが困難。出題するとすれば受験生が入手可能なテキスト（中央法規やミネルヴァ書房等）をベースにするため、参考書や講義資料、模擬問題などを参考に学習しておきましょう。

本科目も「共通」と「専門」に分かれています。受験勉強にあたっては分ける必要はありません。下記①～⑦は過去問題（相談援助の理論と方法とソーシャルワークの理論と方法）を頻出度順に並べたものです。傾向を押さえ、特に事例問題の形式に対応できるよう学習しましょう。

① ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 **大項目 7▶中項目 1～4**

【傾向】31 回問 106・109・111・114・118、32 回問 106・110、33 回問 117、34 回問 117・118、35 回問 116・117・118、36 問 114・116・117、37 回 120・121・122・123

② ネットワークの形成 **大項目 1▶中項目 1**

【傾向】31 回問 106、32 回問 112、33 回問 112、34 回問 117、35 回問 110、36 回問 114

③ ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 **大項目 2▶中項目 1～2**

【傾向】31 回問 105・107・112、32 回問 118、33 回問 107、34 回問 106・110

④ ソーシャルワークにおける援助関係の形成 **大項目 1▶中項目 1～4**

過去問：32 回問 107、34 回問 116、35 回問 104、36 回 106、37 回 115・116・117

⑤ カンファレンス **大項目 5▶中項目 1**

【傾向】32 回問 113、35 回問 76・115

※ケースカンファレンス、会議、話し合い等の事例問題として本科目以外からも出題されている。

⑥ 事例分析 **大項目 6▶中項目 1～2**

【傾向】34 回問 107、36 問 113、37 回 118・119

⑦ ソーシャルワークに関連する方法 **大項目 4▶中項目 1～4**

【傾向】31 回問 107

表：出題基準 ※色のアミは新カリにおける新規項目

大項目	中項目
1 ソーシャルワークにおける援助関係の形成	1) 援助関係の意義と概念
	2) 援助関係の形成方法
	3) 面接技術
	4) アウトリーチ
2 ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発	1) 社会資源の活用・調整・開発
	2) ソーシャルアクション
3 ネットワークの形成	1) ネットワーキング
4 ソーシャルワークに関連する方法	1) コーディネーション
	2) ネゴシエーション
	3) ファシリテーション
	4) プレゼンテーション
5 カンファレンス	1) カンファレンス
6 事例分析	1) 事例分析
	2) 事例検討、事例研究
7 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際	1) 総合的かつ包括的な支援の考え方
	2) 家族支援の実際
	3) 地域支援の実際
	4) 非常時や災害時支援の実際

